PART4 宗教に根ざした生活の変化

Chapter1　西アジア・北アフリカ：エネルギー資源と変化する社会

目標
西アジアの産油国がオイルマネーで潤った背景を知ろう。
脱石油を目指して，西アジア各国で行われている取り組みについて理解しよう。

1　石油メジャーによる油田開発と資源ナショナリズム

・西アジアやアラビア半島，北アフリカは豊富な**エネルギー資源**に恵まれた地域。
・西アジアの〔　　　　　　　　　〕湾岸地域では，従来欧米の**巨大資本**である〔　　　　　　　　　　　　　〕（国際石油資本）による**油田開発**が進められていた。利益は欧米企業が独占し，人々の生活は豊かにならなかった。
・1950 年頃より, 自国の資源は自国で管理するべきだという〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕の考え方により，油田は石油メジャーの手を離れ，**産油国**によって管理されるようになった。
・1960 年に〔　　　　　　　　〕（石油輸出国機構）結成。原加盟国はイランや**サウジアラビア**，ベネズエラなど。原油の**産出量**の決定や価格の調整に大きな決定権を有する。

表　OPEC 加盟国

原加盟国	(南アメリカ) **ベネズエラ** (西アジア) **イラン**，イラク，クウェート，**サウジアラビア**
上記を除く現加盟国	(西アジア) **アラブ首長国連邦** (アフリカ) リビア，**アルジェリア**，**ナイジェリア**，ガボン，コンゴ共和国，赤道ギニア，アンゴラ
旧加盟国	(南アメリカ) エクアドル (西アジア) カタール (東南アジア) インドネシア

2 オイルマネーと社会の変化

・1970 年代の 2 度にわたる〔　　　　　　　　　　　　〕(石油危機）を経て，**原油価格**が**高騰**し，産油国は莫大な利益を上げた。

・とくに西アジアには莫大な**オイルマネー**が流入し，**建設ブーム**が到来。大規模な都市開発が行われ，近代的な都市が多く誕生。**リゾート開発**や**金融センター**の育成なども行われる。

・これらの開発は，南アジアなど経済レベルの低い地域からの**出稼ぎ労働者**が重要な労働力になった。

・また，産油国では，国民からの徴税は行わず，**オイルマネー**で社会福祉の充実に努めた。

・経済が潤い社会が急速に変化する中で，伝統的な**イスラーム**の価値観の中に**西洋**の考え方も一部進出した。一方で，改めてイスラームの価値を問い直す動きや，一部貧困層の中にはイスラームの教えのみに基づく国家形成を目指す動きもあり，**社会不安**が増す地域も存在する。

3 脱石油と新しい産業

・西アジアの産油国では将来的な資源枯渇の可能性も考え，**脱石油**による新しい産業の育成にも力が入れられている。

・アラブ首長国連邦では〔　　　　　　　　　　〕の生産量が急増。石油資源を利用した安価な**電力**によって**アルミニウム**の精錬が行われる。

・同じくアラブ首長国連邦の**ドバイ**では都市整備が進み，**リゾート**を中心とした世界的な観光地に。

ドバイのパームジュメイラ

まとめ

油田を国有化し，オイルショック時の原油価格高騰により利益を得た。
工業の進展や，都市整備によるリゾート開発など。

Chapter2　東南アジア：多様な民族・言語分布と宗教

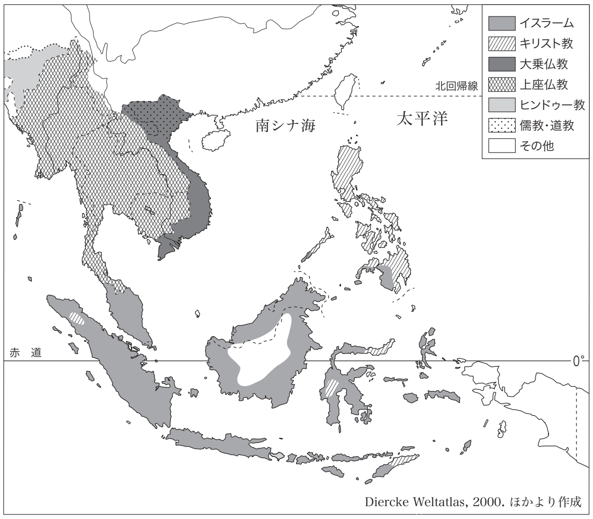
目標
東南アジアのおおまかな宗教分布を理解しよう。
マレーシアとシンガポールの言語政策の違いを理解しよう。

1　東南アジアに見られる宗教の多様性

・東南アジアは古くより，**東西交易**の交差点。東西から人が移動し，さまざまな**宗教・言語・文化**が持ち込まれた。多様な背景を持つ人々が同じ地域で暮らしていることから**「民族のモザイク」**といわれる。
・とくに，中国とインドの影響が大きく，現在でも**中国系・インド系**移民が多く暮らしている。
・東南アジアでは**大陸部**で〔　　　〕教，**島嶼部**で〔　　　　　　　　　　〕が主流。
・**フィリピン**は**スペイン**に，**東ティモール**は**ポルトガル**に，それぞれ植民地支配されたため，〔　　　　　　　　　　〕の信者が多い。

表　東南アジアの宗教分布

区分	主な国	宗教（宗派）	伝えられた経路
大陸部	**タイ・ミャンマー**	〔　　　　〕仏教（南伝仏教）	インドから海沿いに伝えられる。
	ベトナム	〔　　　　〕仏教（北伝仏教）	インドから中国経由で伝えられる。
島嶼部	マレーシア・**インドネシア**	〔　　　　　　　　〕	交易路に沿ってアラブ商人が伝えた。



東南アジアの宗教分布

2　東南アジアの言語・民族の多様性

・東南アジアでは，数百もの言語が使用されている。民族固有の言語のみを**公用語**としている国もあるが，**旧宗主国**や移民の言語を公用語としている国もある。

・**フィリピン**：公用語はフィリピノ語と〔　　　〕語。

・**マレーシア**：公用語は〔　　　　　　　　〕語のみ。**マレー系**住民を優遇する**ブミプトラ政策**も行われる。

・**シンガポール**：公用語は**マレー語**，〔　　　〕語，**中国語**，**タミル語**（インド南部の言語）。かつてマレーシアと連邦を形成していたが，政策の違いにより分離独立。

・**インドネシア**：**インドネシア語**。広大な国土に共通の言語を普及させることで，国家の統一性を高めている。

3　東南アジアにおける宗教対立と民族問題

・東南アジアでは一部に宗教対立や民族問題が生じている。

・フィリピン南部：**モロ族（ムスリム）**による反政府運動が見られる。

・インドシナ半島内陸部：**モン族**がインドシナ戦争の際に難民となり，世界各地に流出した。

・〔　　　　　　　　　　　　　　〕：**ロヒンギャ**（ムスリム）が迫害を受け難民となっている。

難民化するロヒンギャ

まとめ
大陸部は仏教，島嶼部はイスラーム。フィリピンはカトリック。
マレーシアの公用語はマレー語のみ。シンガポールは４つの公用語。

Chapter3　インド：変化するヒンドゥー教徒の生活

目標
1980 年代以降，インドで工業が急速に発展した理由を考えよう。
インドにおける ICT 産業発展の背景は何だろう。

1　工業の発展

・独立直後のインドは民間企業と国有企業を中心とした**混合経済体制**。〔　　　　　〕企業の進出は制限された。
・政府主導の工業化も巨大な国内市場向けであり，〔　　　　　　　　　〕型工業が中心。
・1970 年代以降，外国企業の排除により経済は停滞。
・1980 年代以降，〔　　　　　〕開放，経済自由化を果たし，**外資**の導入により大きく経済成長を果たす。工業生産力も上昇し，〔　　　　　　　　　〕型工業へと転換した。
・**鉄鋼**と**自動車**の生産が急激に拡大し，いずれも世界上位の規模を誇る。
・現在は〔　　　　　　〕の一員として，世界経済の中心的存在へと成長しつつある。

2　ICT産業の発展

・インドでは，1990 年代以降，**ICT 産業**が急速に発展した。それにはいくつかの条件が重なっている。
（1）**24 時間体制**でのソフトウェア開発：アメリカ合衆国との**時差**が約 12 時間あり，アメリカ系企業の**サテライトオフィス**や**コールセンター**が進出しやすい。
（2）**英語の使用**：イギリスの植民地であったことから，〔　　〕語が準公用語となっている。**英語**に堪能な技術者が**低賃金**で雇用できる。
（3）**数学**や**コンピュータ技術**の教育の普及：学校現場でも数学など理系科目の教育に力が入れられている。
・**ICT 産業**の中心として発展した都市は**ベンガルール**（バンガロール）。「インドの〔　　　　　　　　　　　　　　〕」。現在はほかの都市でも ICT 産業が集積。

3　カースト制の現状とICT産業との関係

・カースト制では，代々の**社会集団**ごとに〔　　　　　〕が規定されており，**農村**を中心にその伝統的な考え方は根強く残る。

・しかし，**ICT 技術者**のような新しい職業ならばカースト制に縛られることなく，能力さえあれば自由に就くことができる。

4　経済発展の影

・都市部に高層ビルが立ち並び経済発展が進む一方，**経済格差**が広がり，不良住宅地区である〔　　　　　　〕が形成される地域もある。

・都市への労働者の流出を受けて，地方では**若年労働者**の不足が生じることも。

・海外在住のインド人同士の**ネットワーク**を通じて，優秀な**技術者**がより待遇の良い国へ移動する頭脳流出も問題視されている。

インドの ICT 産業

まとめ　市場開放・外資の導入により，工業化が進展した。
時差を利用してのアメリカ企業の進出，英語の使用，数学教育など。

第 6 講　PART4　確認問題

1 西アジアの産油国などで 1950 年頃から台頭した，自国の資源は自国で管理するべきだという考え方を何というか。

① オイルショック
② 石油メジャー
③ イスラーム原理主義
④ 資源ナショナリズム

2 1960 年にサウジアラビアやイランなどにより結成された，原油の産出量や価格の調整などの大きな決定権を有する組織の略称はどれか。

① OECD　② IEA
③ OPEC　④ NAFTA

3 将来的な資源の枯渇の可能性に備え，リゾートを中心とした観光地として発展したペルシア湾岸の都市はどれか。

① メディナ　② リヤド
③ ドバイ　④ バクダッド

4 近年アラブ首長国連邦で脱石油を目指して積極的に取り組まれていることはどれか。

① 油やしのプランテーション経営
② 石炭の露天掘りによる採掘
③ アルミニウムの精錬
④ 衣服製造工場の誘致

5 かつての植民地支配の影響で，キリスト教の信者が多い国はどれか。

① ベトナム　② タイ
③ フィリピン　④ マレーシア

6 ミャンマー西部のムスリムで，迫害を受けて難民となっている民族はどれか。

① 華人　② モン族
③ モロ族　④ ロヒンギャ

7 共通の公用語を使っている国の組み合わせとしてあてはまるものはどれか。

① マレーシア・インドネシア　② マレーシア・シンガポール
③ フィリピン・ミャンマー　④ タイ・インドネシア

8 インドの工業化について**あてはまらない**ものはどれか。

① 独立直後は国有企業のみで工業化が進められ，民間企業は排除された。
② 当初は国内市場向けの輸入代替型工業が中心であった。
③ 1980 年代以降，市場開放や経済自由化により，輸出指向型工業へと転換した。
④ 現在は BRICS の一員として，新興工業国として存在感を強めている。

9 インドで ICT 産業が発展した理由として**あてはまらない**ものはどれか。

① 英語が準公用語となっているため，英語に堪能な技術者を低賃金で雇用できる。
② アメリカ合衆国との時差が約 12 時間で, アメリカ企業のサテライトオフィスなどを置くことができる。
③ インドの教育現場では，理数系の教育に力を入れている。
④ カースト制によって，優秀な技術者が育てられている。

10 ICT 産業の中心として発展した，インドのシリコンバレーと呼ばれる都市はどれか。

① コルカタ　② ベンガルール（バンガロール）
③ ムンバイ　④ デリー

第 6 講　PART4　確認問題　解答

1 解答：④

西アジアのペルシア湾岸地域ではオイルメジャー（石油メジャー）による油田の利権独占に対して，1950 年頃より，自国の資源は自国で管理するべきだという**資源ナショナリズム**が台頭した。

①：1970 年代に起こった原油価格の高騰とそれに伴う世界経済の混乱のこと。
②：欧米の巨大国際石油資本のこと。
③：イスラームの原初的な教えに回帰すべきとする考え方。

2 解答：③

OPEC は**石油輸出国機構**の略称。資源ナショナリズムの考えから，資源は欧米による石油メジャーの手を離れ，産油国による管理がなされるようになった。

①：経済協力開発機構の略称。
②：国際エネルギー機関の略称。OECD に属する組織として設立。
④：北米自由貿易協定の略称。

3 解答：③

アラブ首長国連邦の都市。大規模で近代的なリゾート開発が行われている。西アジアの国々では，脱石油による新しい産業の育成にも力を入れている。

①：メッカと同様にサウジアラビアにあるイスラームの聖地。
②：サウジアラビアの首都。
④：イラクの首都。

4 **解答：③**　豊富な石油資源を利用して得られる安価で大量の電力を活かした**アルミニウム**の精錬が盛んで，アルミニウム生産量が急増した。

①：油やしは高温多雨地域を栽培適地とし，乾燥地域のアラブ首長国連邦には不適。
②：西アジアには石炭の埋蔵量が少なく，不適。
④：衣服製造業は大量の労働力を要し，人口の少ないアラブ首長国連邦には不適。

5 **解答：③**　**フィリピン**は，かつてスペインやアメリカ合衆国の植民地だったことがあり，その影響を受けて国民のほとんどが**キリスト教**の信者である。

①：大乗仏教を主に信仰。
②：上座仏教を主に信仰。
④：イスラームを主に信仰。

6 **解答：④**　**ロヒンギャ**はミャンマー西部に住む**ムスリム**の少数民族。

①：華人とは，中国から他国へ移住し，その移住先で国籍を取得した人。
②：モン族は，インドシナ半島内陸部に住む民族。難民となり，インドシナ戦争時，世界各地に流出した。
③：モロ族は，フィリピン南部に住むムスリム。反政府運動が見られる。

7 解答：②

マレーシアもシンガポールも**マレー語**を公用語としている。かつて両国は，連邦を形成していた。シンガポールではほかに，英語，中国語，タミル語も公用語である。

①：インドネシアの公用語はインドネシア語。
③：フィリピンの公用語はフィリピノ語と英語。ミャンマーはミャンマー（ビルマ）語。
④：タイの公用語はタイ語。

8 解答：①

独立直後のインドでは民間企業と国有企業を中心とした**混合経済体制**が採用された。なお，外国企業の進出は厳しく制限されていた。

9 解答：④

カースト制では代々の社会集団ごとに職業が継承される身分制度。**ICT 産業**のような新しい産業の技術者を育成するようなシステムではない。

①：ICT 産業最先端のアメリカ合衆国とスムーズに仕事をすることができる。
②：①に同じ。
③：ICT 技術者に必要な能力を高めることができる。

10 解答：②

ベンガルールはインド半島南部に位置する。アメリカの ICT 企業で働いたのちに帰国し，知識と技術を持ってベンガルールで働く人も多い。

①：インド東部の都市。
③：インド西部のインド最大の都市。
④：インド北部に位置するインドの首都。